

長崎県教育委員会指定（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）

西海市教育委員会指定（学力向上）

西海市立大島東小学校研究発表会

研究主題

自己の成長に気付きながら、楽しく学ぶ児童の育成を目指して
～単元の見通しのもたせ方の工夫・思考ツールの活用をとおして～

○主題設定の理由

本校の児童の多くは、指示されたことには素直に取り組み、学習においてもそのようなよさが表れている。しかし、一方では、学んだことを自分の言葉でまとめることに自信をもてない児童や、考えを書くことに苦手意識をもっている児童が多い。全国学力・学習状況調査（2018年）では、基礎的・基本的な技能の定着が不十分であるとともに、問題文の意味を理解できず、記述式の算数科の問題では、無回答の児童が四分の一を占めるということもあった。

これは本校の全体的な傾向であり、このような児童の実態や、学習指導要領の改訂を踏まえて学校教育目標「学びの中で夢を抱き夢の実現に向け、たくましく生きる児童を育成する」を見直した結果、本校児童に育成していきたい資質・能力を次の3つととらえた。

- ・課題をもち、主体的に学習に取り組む態度
- ・自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力
- ・課題解決に必要な知識・技能

さらに、本校児童に経験させたいのは、探究的な学習により「できた」「わかった」と言える喜び、喜びに伴う自信だという考えから、これら3つの資質・能力のうち、校内研究で特に重視したい資質・能力を、思考力・判断力・表現力等にあたる「自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力」とした。

このような考えのもと、児童の夢を叶えるための学力向上、つまり、児童が自己の成長に気付きながら楽しく学ぶことができることを目指すことにした。

「喜びは、次のステップへの弾みになる。自信は、何度でも取り組む励みになる。」このような思いで研究主題を設定した。

児童に育成したい資質・能力

資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

学校教育目標

学びの中で夢を抱き 夢の実現に向け たくましく生きる児童を育成する

児童の実態

- 指示されたことには素直に取り組む。
- 友達の話を聞きながら、協力して学習することを好む。
- ▲ 真面目に課題に取り組むものの、自分のまとめに自信がもてない児童が多い。
- ▲ 「書く」ことに苦手意識をもつ児童が多い。
 - ・理由や事例を挙げて書くこと、段落を分けて書くこと
 - ・要約すること
 - ・文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること

育成したい資質・能力の設定

課題をもち、主体的に学習に取り組む態度

自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力

課題解決に必要な知識・技能

特に重視して育成したい資質・能力の設定

自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力

目指す児童像

- 目の前の問題に気付き、主体的に解決しようとする子
- お互いを認め合い、協働的に取り組む子
- 自己の成長に気付き、自己のよさや可能性を見いだす子

研究の構想

研究主題

自己の成長に気付きながら、楽しく学ぶ児童の育成を目指して
～単元の見通しのもたせ方の工夫・思考ツールの活用をとおして～

研究仮説

ゴールのイメージをもって「付けたい力」を設定したり、考えを視覚化することで自分と友達の考えを比較したり整理したりするなどして、見通しをもって学習に取り組めば、児童は自己の成長に気付きながら楽しく学ぶことができるであろう。

研究内容

- 1 児童が自分の成長に気付きながら学ぶことができる単元・授業の構想
- 2 児童の思考を可視化し、対話の手助けとなる手法
- 3 学びの振り返り方
- 4 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る

研究の方法

●総合的な学習の時間と国語科を中心に研究を行う。

- 1 教師は、単元の導入の段階で学習の見通しをもたせる。
 - ・総合的な学習の時間では、児童が探究活動を繰り返し行うことができる単元を構想し、教師と児童がともに「付けたい力」を決定し、目標を共有する。
 - ・国語科では、学習の見通しとなる学習課題を作成する。
- 2 思考ツールを取り入れた授業づくりを行う。
- 3 深い学びにつながる振り返りのために視点を与えるとともに、自分との対話の時間を保障する。
- 4 唱えて覚える漢字練習の導入や、生活習慣改善（早寝・早起き・朝ご飯）、家庭学習の習慣化を図り、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る。

学習環境部

- 学習環境整備
 - ・大島東小学習スタイル作成
 - ・思考ツールの掲示
 - ・漢字部品の掲示

学力定着部

- 校内一斉テストの実施・改善
- 学力調査分析

家庭環境推進部

- 家庭学習の手引きの作成・改善
- 生活習慣の改善のための手立て

■単元の見通しのもたせ方の工夫について

児童が学習の見通しをもつことができるように、ゴールの姿を共有する。その際、児童が「やってみよう！」と思うような魅力的な提示を心がけ、児童の関心を高めていく。そして、ゴールに到達するためにどのような力を付けていくか、教師と児童が決定していく。

毎時間の学習においては、5分程度で学習のめあてをつかみ、見通しをもつ。30～35分は学び合う。5分から10分はまとめや振り返りの時間を確保する。この毎時間の学習の振り返りの際に、ゴールまでの見通しを再確認していく。

総合的な学習の時間と国語科において心がけている点は次のとおりである。

◆総合的な学習の時間

- (1) 教師は、児童が探究活動を繰り返し行うことができる単元を構想する。
- (2) 単元の初めに、教師と児童がともに「付けたい力」を決定し、目標を共有する。
- (3) 毎時間の学習の振り返りでは、深い学びにつながる振り返りのために視点を与えるとともに、自分との対話の時間を保障する。
- (4) 単元の終末に「付けたい力」がどの程度身に付いたか、自分の学習を振り返る。

◆国語科

- (1) 教師は、児童にとって学びのゴールがわかる言語活動を設定する。
- (2) 単元の初めに、学習の見通しとなる学習課題を作成する。

Aフレーズ	…	明確な指導事項(資質・能力)
Bフレーズ	…	具体的な思考操作
Cフレーズ	…	価値ある言語活動

具体的な例として

心情を表す表現に着目して読み、『カレーライス』についての自分の考えをまとめる力を付けます。

そのために、登場人物に自分を重ね合わせたり、周りの人物との関わりを考えたりして、主人公と自分との対談記をつくります。

- (3) 毎時間の学習の振り返りでは、自分との対話の時間を保障する。
- (4) 単元の終末に「付けたい力」がどの程度身に付いたか、自分の学習を振り返る。

■思考ツールの活用について

児童の思考を可視化して、対話の手助けとするために活用している。

学習の際には、全ての児童の考えを取り上げたい。だが、一斉授業では、なかなかそうはいかない。様々な意見や感想を出し合いたいときに、思考ツールは大変有効な手立てである。意見や感想を付箋紙に書いて並べることで、分類したり整理したりすることが容易に可視化できる。思考ツールは、発表が苦手な児童や、聞いてすぐに理解ができない児童にとって、参加しやすい手立てだといえる。

多くの思考ツールが存在するが、本校の学習の場においてよく活用するツールは、「比較する」「分類する」「関連付ける」に絞られてきた。

思考ツールの活用においては、教師が指示するばかりでなく、目的や用途に合った思考ツールを児童自身が選ぶことができるようになってほしいと願っている。そのために、思考ツールを教室に掲示し、児童が選んで活用する機会を意図的に設けている。

研究の成果と課題

○成果

(1) 児童の姿「自己の成長に気付きながら、楽しく学ぶ」について

- 「付けたい力」を、児童と教師と一緒に確認することにより、見通しをもって、学習に臨む姿が増えてきた。
- 思考ツールの活用により、自分の考えを友達と比較したり、自分とは違う見方があることに気付いたりすることができるようになってきた。
- 学習の振り返りを、一定の文章量で書くようにした。その時間に学んだこと、友達のよさ、次の課題など自分事として振り返ることで、自分の考えを文章で表現する力が付いてきた。
- 生活習慣の改善と家庭学習への意識の高まりが見られた。

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(肯定的回答の割合)	2017年	2019年
	75%	82%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。(肯定的回答の割合)	2018年	2019年
	55.5%	79.5%
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらい時間、勉強をしますか。(「1時間以上」と回答した割合)	62.9%	77%
朝食を毎日食べていますか。(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)	77.8%	100%

※全国学力・学習状況調査「質問紙」調査結果より

(2) 学力調査結果(西海市学力調査結果)の推移について

- 思考力・判断力・表現力等の育成を重視して取り組んだ結果、「関心・意欲・態度」「書く」「活用」面を中心に、少しずつではあるが、学力が向上してきた。

資料は西海市の正答率と本校の正答率を比較し、下記の基準で示した。
(▲-5以上～、△-5～-2、≒-2～+2、○+2～+5、◎+5以上～)

【現在の5年生(国語科)】

	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項	基礎	活用
2017年	≒	≒	≒	▲	△	△	≒
2018年	◎	○	◎	○	△	≒	○

【現在の6年生(国語科)】

	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項	基礎	活用
2017年	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
2018年	◎	○	◎	≒	○	○	◎

【現在の中学1年生(国語科)】

	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項	基礎	活用
2017年	△	≒	△	○	△	△	○
2018年	≒	≒	≒	≒	△	△	○
2019年	◎	≒	◎	≒	○	○	○

●課題

- 思考ツールを使って考えを整理し、意見を他者に紹介することはできるようになってきたが、対話を通して自分の考えに自信をもったり、友達のよさを進んで取り入れて新しい考えを導き出したりするという点では、まだ十分とはいえない。
- 本研究で、特に育成したい資質・能力は「思考力・判断力・表現力等」であるが、「思考力・判断力・表現力等」の育成には、他教科等との関連が不可欠であることが分かった。育成したい資質・能力を明確にするために「単元配列表」で示したが、今年度完成したばかりでまだ十分に活用できていない。今後の実践を通して必要な加除修正をしながら、カリキュラム・マネジメントの充実を図っていきたい。